

令和2年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会
会長 木村雅和



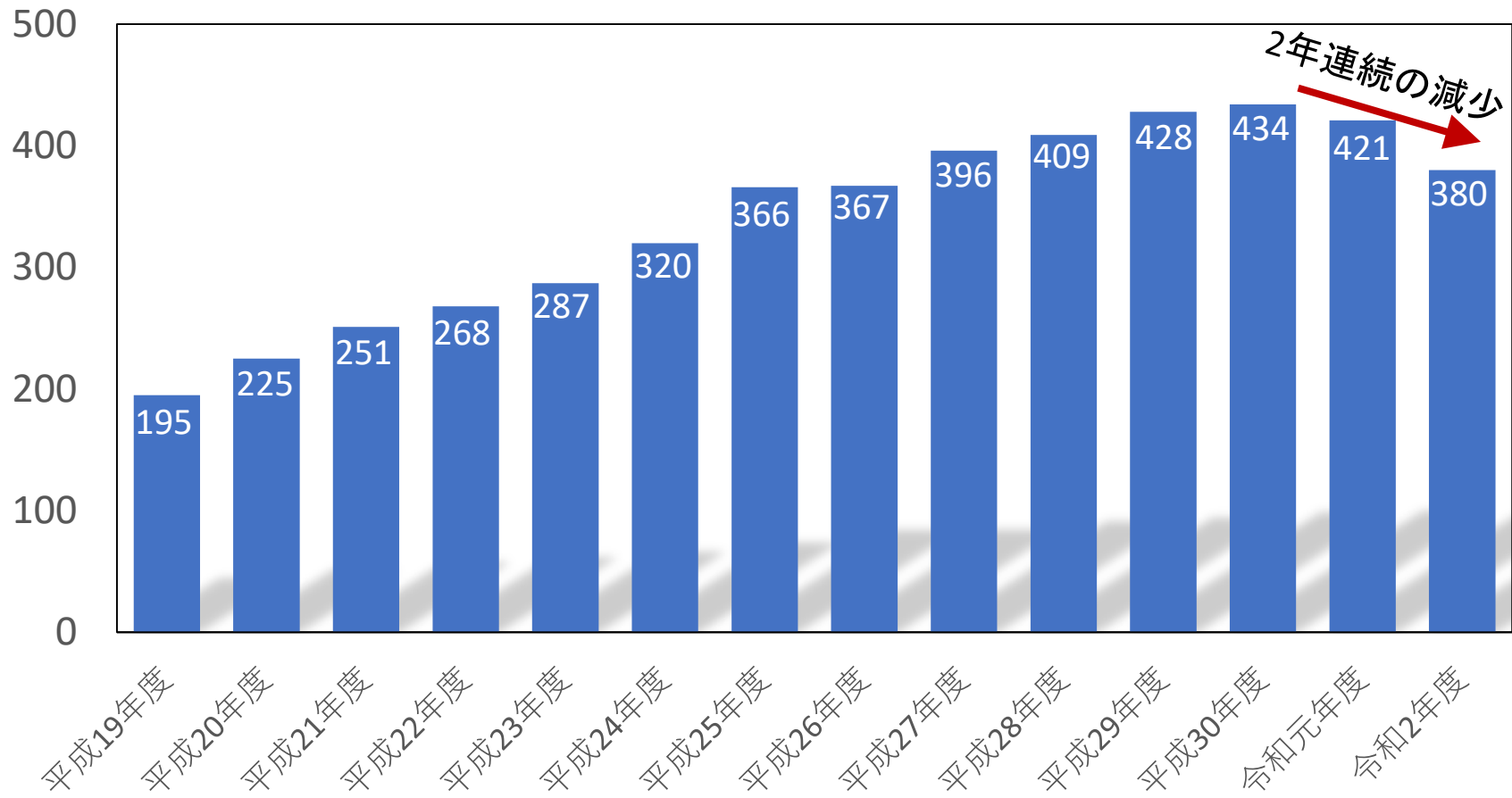
第9期運営の基本

『新しい価値の創生』

(学会員のための学会)

⇒ 原点に立ち、会員のための学会

会員数推移



会員数が2年連続で減少しました

1. 学会誌, 研究大会の充実

1. **大会の開催**:2019年6月20日~21日第17回大会を奈良市において開催(参加者数530名、発表件数174件)
2. **学会誌の発行**:学会誌「産学連携学」第15巻第2号(令和元年8月21日)および第16巻第1号(令和2年1月31日)を発行
3. **海外学会との交流**:令和元年10月17日、18日にDongseo Univ Centum Campus Busan(釜山市)において、韓国の産学協力学会と第5回韓日ワークショップを協力開催(日韓比較研究会、日本からの参加者:6名、日本からの発表者:6名)
3. **シンポジウムの開催**:令和2年2月7日に「イノベーション・マネジメントシステム ~効率的なイノベーション創出を目指して~」をテーマに東京海洋大学を越中島キャンパスを会場にシンポジウムを開催(事前参加登録:251名)

II. 支部・研究会活動の活性化

各支部活動

1. **北海道支部**: 北海道科学大学主催の「第6回北方地域社会フォーラム: 宿泊の進化から考える「まちの当事者」は誰か?」の後援と開催協力(令和2年2月10日: 札幌市)
2. **東北・北関東支部**: 北海道支部、学金連携システム研究会、秋田大学の共催を得て、「東日本カンファレンスin秋田2019」を開催(令和元年9月17日~9月18日: 秋田市)
3. **関西・中四国支部**: 第11回研究・事例発表会を開催 (令和元年12月5日~12月6日: 広島市)
1. **九州支部**: 「IoT、AIを活用した新ビジネスの創造~産学共同でのデジタル異業種連携戦略~」をテーマとした産学連携ネットワーク会議の企画と事業化マッチングのためのラウンドテーブルの視察の計画(コロナウイルス対策のため延期)

II. 支部・研究会活動の活性化

研究会活動

- 1. 学連連携システム研究会:**「東日本カンファレンスin秋田2019」の共同開催として第20回研究会の開催(東北・北関東支部、北海道支部、秋田大学との共催 令和元年9月17日:秋田市)
- 2. オープンイノベーション研究会:**オープンイノベーションの先行事例、支援システムの紹介等を進めるための議論を重ね、事業提案を行った。
- 3. リサーチ・アドミニストレーション研究:**産学連携学会第17回大会オーガナイズドセッション(令和元年6月21日:奈良市)、および第11回研究会の開催(令和2年2月7日:千代田区)
- 1. 地域社会実装研究会:研究会の開催、**第3回「大学を活用した中小企業のグローバル展開、事例発表」の開催(令和元年12月21日:大阪市)、中小企業産学連携ニーズ発掘サロンの開催(令和元年7月6日:大阪市)
- 2. 行動経済・社会システム研究会:**産学連携学会第17回大会(奈良大会)での2件の発表、関西・中四国支部の第11回研究・事例発表会での1件の発表
- 3. 日韓比較研究会:**第5回韓日ワークショップを開催(令和元年10月17日、18日:釜山市)、また学会誌(第16巻第1号 特集:研究会における学術的取組事例・成果)に研究会活動に関する記事を寄稿

III. その他の活動

1. **ニュースレターの発行**: 今後のニュースレターの在り方について検討
2. **メールニュースの発行**: 第983号～第1041号発行(58回)
3. **共催事業**: 公開研究会「建築学分野での産学官連携の在り方と今後のシステム設計を考える(一般社団法人日本建築学会主催、令和元年11月7日:港区)」の1件
4. **各種イベントや展示会での出展**: 「アグリビジネス創出フェア2019」への出展(令和元年11月22日、江東区)
5. **後援事業**: 「アグリビジネス創出フェア2019(農林水産省主催、令和元年11月20日～22日、江東区)」、「第20回ビジネスフェア by Seibushinkin Bank(西武信用金庫主催、令和元年11月7日:文京区)」、「輸出管理 DAY FOR ACADEMIA 2020(令和2年3月6日:千代田区)」の3件

2号議案:2019年度決算報告

科	目	金額	小計・合計
[A]	経常収益		
1	受取会費		5,218,000
	入会金	172,000	
	年会費	5,046,000	
2	受取寄附金	4,400,000	4,400,000
3	受取助成金等		0
4	事業収益		3,337,750
	研究事業収益	2,750,500	
	啓発事業収益	128,750	
	講演・研修事業収益	458,500	
5	その他の収益		13,003
	受取利息	38	
	雑収入	12,965	
	経常収益計		12,968,753
[B]	経常費用		
1	事業費		1,396,523
	(1) 人件費		
	給料手当	592,309	
	謝金	804,214	
	(2) その他経費		8,705,000
	事務用品費	385	
	消耗品費	327,049	
	リース料	5,258	
	接待交際費	17,876	
	旅費交通費	481,410	
	通信費	300,986	
	支払手数料	1,112,871	
	会議費	1,891,917	
	外注費	81,000	
	印刷費	2,174,927	
	会場費	1,784,200	
	情報交換会費	527,121	
	事業費計		10,101,523
2	管理費		0
	(1) 人件費		
	(2) その他経費		3,450,614
	減価償却費	13,620	
	通信費	318,400	
	支払手数料	119,721	
	諸会費	30,000	
	外注費	2,968,873	
	管理費計		3,450,614
	経常費用計		13,552,137
	当期経常増減額【A】-【B】・・・①		-583,384
[C]	経常外収益		
	固定資産売却益		
	過年度損益修正益		
	経常外収益計		0
[D]	経常外費用		
	固定資産売却損		
	災害損失		
	過年度損益修正損		
	経常外費用計		0
	当期経常外増減額【C】-【D】・・・②		0
	税引前当期正味財産増減額①+②・・・③		-583,384
	法人税、住民税及び事業税・・・④		
	前期繰越正味財産額・・・⑤	4,389,415	
	次期繰越正味財産額③-④+⑤		3,806,031

収入 会費収入が基本収入:約500万円

支出 研究事業(大会等):50万円
 啓発事業(学会誌等):約100万円
 講演事業(支部、研究会、シンポジウム等):約100万円

支出 管理費(事務局委託費等):約300万円

2019年度は単年度収支で**583,384円の赤字**となりました

H30年度 ○印刷費、通信費等の経費削減対応策
 ×会員増強策

今年度 深刻な課題として学会員の減少も加わり、
 予算構造の本質的問題→将来構想委員会での検討

3号議案: 令和2年度事業計画

1. **大会の開催**: 第18回大会を秋田市において開催(6月18日~19日に予定した第18回大会を11月17日~18日に延期)
2. **学会誌の発行**: 「産学連携学」を年2回発行する
3. **秋季シンポジウムの開催**
4. **海外学会との交流**: 韓国の産学協力学会との連携強化(今年度はオンライン会議等)
5. **情報発信**: ニュースレター(年2回(1回目は9月を予定))、メールニュース(随時)の発行
6. **新規参加者の開拓**: 支部・研究会活動の強化、新支部の設立
7. **各支部、研究会活動**

4号議案：令和2年度事業予算計画

科目		金額（単位：円）		
収入				
1. 会費収入				
	会費	4,800,000		
	入会金	140,000	4,940,000	
2. 事業収入				
	研究事業	3,000,000		
	啓発事業	200,000		
	講演事業	450,000	3,650,000	
当期収入合計(A)				8,590,000
支出				
事業費				
	研究事業	3,500,000		
	啓発事業	1,000,000		
	講演事業	670,000	5,170,000	
管理費				
	事務局委託料	2,980,000		
	通信費	300,000		
	支払い手数料	120,000		
	減価償却	20,000	3,420,000	
当期支出合計(B)				8,590,000
当期収支差額(A)-(B)				0
前期繰越収支差額(C)				3,806,031
次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)				3,806,031

収入

会費収入の増加は期待できないが、
新支部設立等による会員増強の推進

支出

研究事業(大会等): 50万円
啓発事業(学会誌等): 100万円

講演会事業

支部経費、研究会経費: 3割カット
シンポジウム経費: 5割カット
(オンラインセミナー等の積極的企画)

スムーズな事務局移行のため管理費の維持

- ◆ 秋田大会開催の模索と支援
- ◆ 安定した財政運営のため、会員増強の推進
- ◆ 魅力的な学会の未来像の検討

5号議案:令和2年度表彰者

業績賞:該当なし

論文賞:該当なし

功労賞:株式会社 ウエザーコック 専務取締役
山本 一枝 氏

推薦理由:

産学連携学会の創設当初より、「産学連携」の「産」の立場より学会の基本的在り方に関して貴重な影響をもたらし続けてこられた。近時では、第5期より連続して5期に亘って理事として学会運営に貢献され、その間に2016年から2019年まで北海道支部代表を務められるなど支部活性化にも尽力された。その功績は大きく、功労賞にふさわしいものとする。(

特別賞:該当なし

【令和元年度役員】(令和2年6月18日時点)

会 長: 木村雅和(静岡大学)

副会長: 飯田香緒里(東京医科歯科大学)、石塚 悟史(高知大学)、

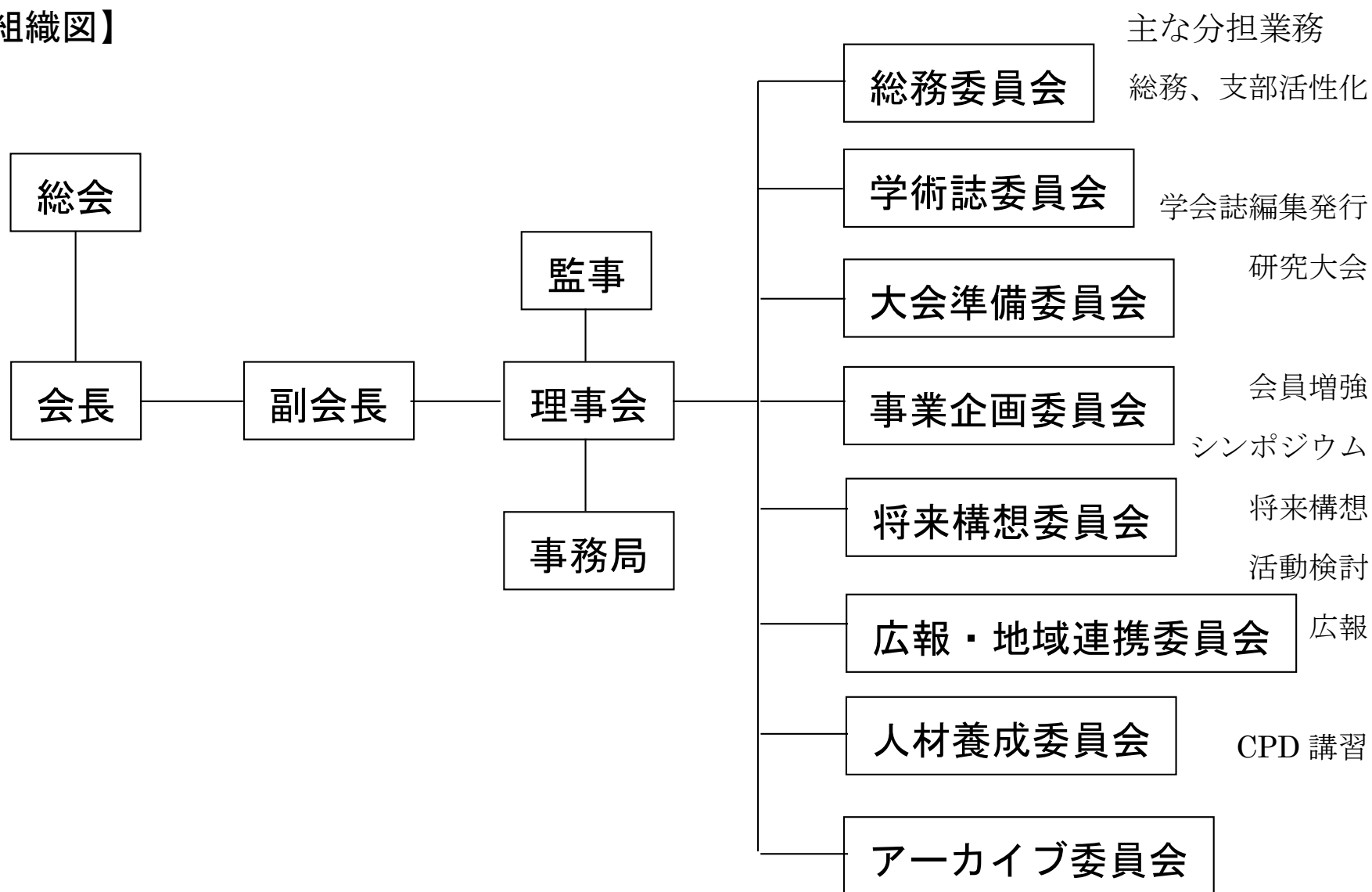
理 事: 網屋毅之(大谷特許事務所)、伊藤慎一(秋田大学)、内島典子(北見工業大学)、
内山大史(弘前大学)、江田英雄(光産業創成大学院大学)、緒方智成(熊本大学)、
尾関雄治(東レ(株))、小野浩幸(山形大学)、川名優孝(東京海洋大学)、
木村 尚仁(北海道科学大学)、北村寿宏(島根大学)、菅万希子(帝塚山大学)、
永富太一(香川大学)、馬場大輔(経済産業省)、林聖子(亜細亜大学)、
廣田勝巳(国立研究開発法人科学技術振興機構)、松平竹央(知財経営研究社)、
松本毅((一社)Japan Innovation Network)、矢野卓真(名古屋工業大学)、
山本一枝((株)ウェザーコック)、李鎔璟 (山口大学)

(会長、副会長を加え24名)

監 事: 川崎一正(新潟大学)、桑江良昇(北里大学)

事務局長: 石塚悟史(高知大学)

【組織図】



ありがとうございました